



名古屋市の市街地から少し離れた住宅地に、山内章弘さん・知美さん夫妻が手がける紳士服ブランド「山内」のギャラリーがある。章弘さんの実家を改装して作られた白が基調のギャラリーは、シンプルで美しいシルエットのアイテムがより映える造りになっていた。ギャラリーのすぐ隣にあるアトリエでは、服づくりに勤しむ山内夫妻の姿があった。

特集 ダタタタ チクチク、洋服の旅
服づくりの原点は日本人であること

なぜ服を作っているのかということ突き詰めていくと、
“日本人であること”という自分のルーツに辿り着いた。

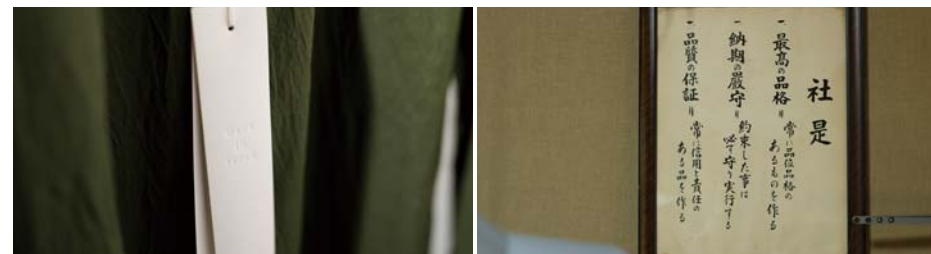
タイプが違うように見えて 実は根幹が共通している二人

「山内」は夫の章弘さんがデザイン・コンセプトを担当し、
妻の知美さんがサポートするという夫婦二人三脚のブランド。

名

古屋市郊外の住宅地に
ひっそりと佇む紳士服ブ
ランド「山内」のギャラリー兼
アトリエ。知る人ぞ知るこのブ
ランドを運営するのは代表兼
デザイナーの山内章弘さんと
妻の知美さん。二人は「山内」の
前身となるブランド「yamoi」
（ヤモシ）で出会い、服づくり
をする中で意気投合し夫婦と
なった。

「自分がyamoiを立ち上げた
時、その作業スタッフの一人と
して彼女が来ました。スタッフ
として集まった人はyamoiの
スタイルに似た人が多かった
のですが、彼女はそれとは全く
異なっていてそれがとても印
象に残っています」と知美さん
の第一印象を話す章弘さん。知
美さんも「最初は難しい人だな
と。とにかく話さなくて、話し
にしても毎日同じルーティー
ンなので彼が何を考えている
んだらうといつも考えていま
した」と章弘さんの第一印象
を話してくれた。当時の二人は
見た目も性格も正反対だった
そうだが、そんな二人がなぜ
夫婦となり今に至っているの
だらう。



社是にもあるように、とにかく作業一つひとつをていねいに行う二人。
ブランド立ち上げ当初はデザインや生地選びはもちろん縫製なども二人で行っていた。



日本の素材で日本の職人たちと作る服

以前はすべて一人で服づくりをしていた章弘さんは、ある縫製職人との出会いから分業の大切さを知る。

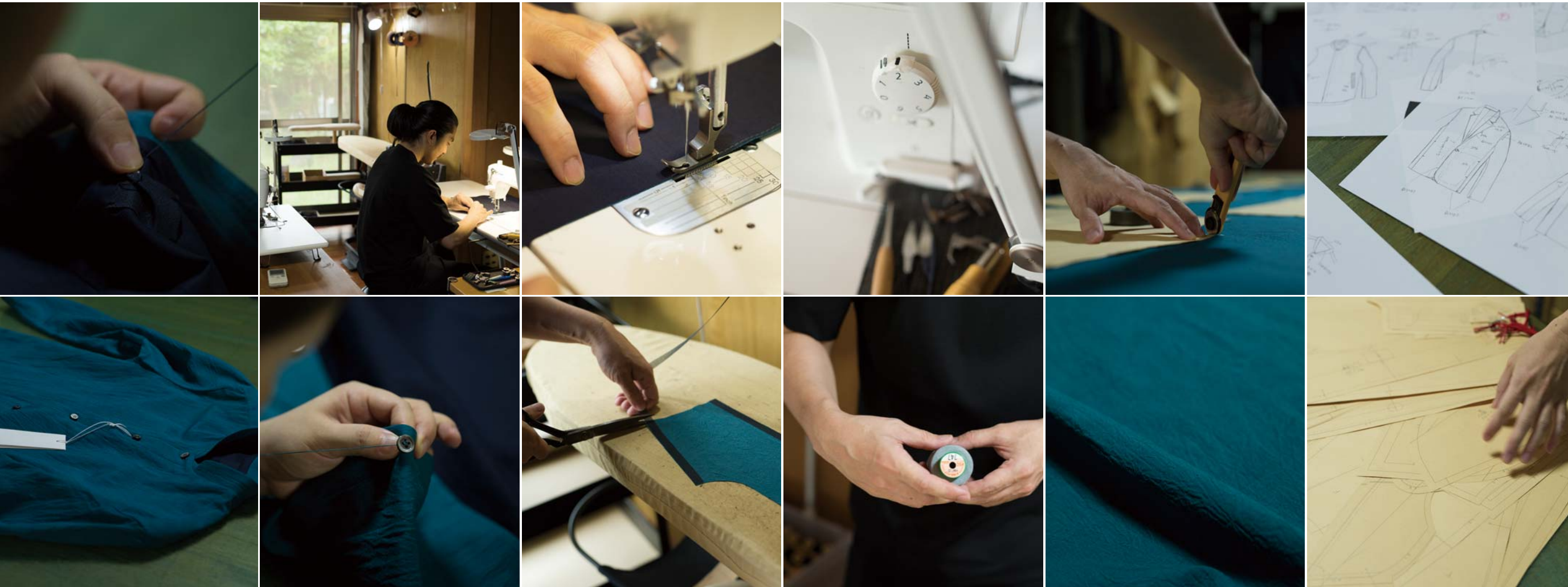
「こ」 ちらのアトリエではコレクション用のサンプル製作が主体となっているそう。通常は縫製専門のスタッフがもう一人いるそうだが、今は産休で二人で作業されていた。二人の仕事は素人目から見てもいいねいで、精緻な作業も多い。服の設計図となる指示書にも縫い方やステッチの入れ方などが細かく書かれ、章弘さんのこだわりが感じられる。

章弘さんはブランド立ち上げ当初は、デザイン、パターン、縫製など、全ての工程を一人で行っていたという。しかし、一人の縫製職人との出会いが考え方を逆転させた。

「それこそ生地染色まで自分でしていた時期もありました。ですが、ブランドもしたい、デザインもしたい、服も作りたいとなると一つの技術を極めるには圧倒的に時間がありません。香川の縫製職人さんとお出会った時それを実感しました。それをきっかけに日本の職人さんと一緒にブランドのクオリティを上げたいと思ったんです」と当時の衝撃を章弘さんは話す。

また、日本にこだわる理由については「日本という枠を出ると、作り手も素材もなるべく安くて大量生産できるものを求めてしまうでしょう。ファッション業界の現状を生んでいるのはそのマインドだと思います。日本にフォーカスすることで、少しでも日本の生地の素晴らしさや職人さんたちの技術の高さを伝えられたらと考えます」と章弘さんは話してくれた。「Yamoco」から「山内」にブランド名を変更したのも、章弘さんの意思表示だった。

服づくりの作業工程は多岐に渡る。生地選びから始まりデザインの構築、ボタン等の付属品選びとパターン引き、シルエットがわかる衣服の原型となる「トアル(またはトワル)」作り、サンプルの作成・縫製などなど。そして、いくつかのサンプルを作成し完成した後に製品用の型紙が作られ、ようやく店頭で並ぶ製品となる。二人はその行程を積み重ねながら、一つのデザインを完成させているのだ。まるで生地と会話を交わすように作られる「山内」のコレクション。丈夫で着心地の良い「山内」ならではの仕立ては、ていねいな仕事の賜物と言えるだろう。





生地から表現される服

生地からインスピレーションを受けデザインされる。

「山内」のデザインは生地から決まると章弘さんは話す。「生地が好きなんです。生地の風合いや織りにピンと来たらデザインを考えます。デザイン先行というのは今までないですね。デザインが完成してからそれに合った生地を探すのは、それこそ膨大な時間がかかると思います。生地が見つからないとそのデザインはボツになりますからね。形はシンプルでも細部にこだわっているのも「山内」ならではのデザイン。例えば有松塩縮加工リネンシャツは1着ずつ手裁断によって作られている。それは生地にシワがあるため地の目が合わせ辛く、重ね切りができないからだ。こういったていねいな仕事も関わる職人たちから信頼を得ている理由の一つ。「人と人がつながるには時間がかかります。3年通ってようやく卸してくれた機（はた）屋さんもありますから。そんな方たちから信用を得続ける為にも、私たちはきちんとした仕事をしないとけません」。

【1】有松塩縮加工リネンシャツ (yc41-18s)

「山内」の定番としてオールシーズン提案している有松塩縮加工のリネンシャツ。愛知県の伝統工芸「有松絞」の技術を取り入れた塩縮加工により生まれた独特のシワ感が印象的で、洋のデザインに和の要素を感じることができる。使用する生地は有松の職人が一つずつ加工したもので、何度も洗いをかけて独特の風合いを出しているのだそう。生地の特性上、1着ずつ1パーツ1パーツ裁断し縫い上げるため量産ができないという点もまた魅力だ。(¥35,000(税別) 色 / beige・green・cyan・black サイズ / 2・3・4・5)

【2】ハイブリッドコットン・ミリタリーコート (18s11)

毎回15型ほどの希少な春夏用コートは章弘さんお気に入りのアイテムの一つ。コレクションサンプルの9割を自社で手がけたというデザイナーの愛情が込められた作品となっている。(¥95,000(税別) 色 / gray khaki・black サイズ / 2・3・4)

【4】リップ付きジップジャケット (yc21-18s)

限界モデルの超高密度平織り生地を表地に使用し、定番ジップジャケットを春夏仕様で仕立て直した2018年の新作。アトリエ内で一つずつ手作業で製作しているオリジナルリップを使用。(¥90,000(税別) 色 / brown・gray navy サイズ / 2・3・4)

【3】ハイブリッドコットン・ジップジャケット (18s35)

総裏仕立てで内ポケットが左右付いても、あくまでジャケットとシャツの間をイメージしたジップジャケット。重たい印象を持たせないためボデイのステッチを見せないよう仕立てている。(¥55,000(税別) 色 / gray khaki・black サイズ / 2・3・4)

【5】フリーカット強撚ボンチ・テラードジャケット (18s38) & パンツ (18s61-A)

縫い代始末や端始末をせずに、断ち切り仕様で仕立てた「山内」では初めてのモデル。繊細で美しい裁ち端が実現できるニット素材を使うジャケットとパンツはセパレートしても使いやすい。(ジャケット¥50,000(税別) パンツ¥33,000(税別) サイズ / 各2・3・4)



ゆっくりとしかし確実に「山内」は進化する

新たな命の誕生が与えた章弘さんの心境の変化とは。

服

「まずその道のプロの意見を聞きたい」と話す。それは自分たちよりも、そこに携わっている人の方が圧倒的な情報量と経験を持つから。

「生地を選ぶ時も、まず機屋さんが一番というものを伺います。そこでカッコイイと思えばデザインを考えますし、アレンジができそうなら相談します。あくまで主体は向こうなんです」と章弘さん。彼らは一度関わりを持った職人さんたちとは長い付き合いになることが多い。

「ワンシーズンだけ使った後は別のものというサイクルは好きじゃありません。人間関係を深めていく中で新しいものが生まれます。人によってはまた同じものだと思うかもしれませんが、私たちにとってはきちんと進化している。素材や技術の進化は急激である必要はないと思います。最終的にマネできない美しいものになるには時間が必要ですから」。「山内」の服に伝統と革新が共存しているように見えるのは、彼らの長期的な進化があるからかもしれない。

今年6月に章弘さんと知美

さんの間に新しい命が誕生した。愛娘の誕生で作品に何か変化はあるのだろうか。

「作品と子どもの存在は直結しないかと思えます。子どものために服を作りたいという気持ちもありますが、それは製品にしたいということではありませんし、流行のスピードが緩やかな紳士服が私の性分にあっているので、大きく変わることはないかな……」と章弘さんは話したが、知美さんは少し考えていることが違うようだ。

「彼は出産の前から色々協力的に動いてくれましたし、もちろん出産にも立ち会ってくれました。そして娘を抱く姿はご覧の通りです(笑)。そんな姿を見ていると、職人気質の彼にある型みたいなものが柔軟になつて、よりしなやかなコレクションが生まれるんじゃないかと期待しています」と知美さん。

日本人であることに誇りを持ち、服で表現する「山内」。そんな彼らが愛娘誕生という人生のターニングポイントを機にどんな作品を見せてくれるのだろうか。次の「山内」のコレクションから目が離せない。

今回の旅のメモ。

今回の旅で訪れたのはこちらです。

profile

山内章弘

1977年愛知県名古屋市生まれ。服飾の専門学校を卒業後、建築関係の仕事に就いたがそれと並行して趣味で服づくりも続けていた。26歳の時、やはりアパレルに携わりたいという想いからワーキングホリデービザを取得しフランス・パリへ。そこで出会ったデザイナーに師事し、1年間の修行を経て日本に帰国。その後、東京の服飾メーカーでさまざまなアシスタント業務に就き、服飾についての知識を蓄えた。独立と同時に名古屋に戻り、2009年に「yamoci」を立ち上げる。2015年に「山内」へとブランド名を変更。今に至る。

山内

愛知県名古屋市名東区社台1-146

☎052-737-9854

<http://yamauchi.jp.net>



access

山内
まで

[公共交通機関で]・・・中部国際空港セントレアから名鉄常滑線で名鉄名古屋駅へ。名古屋市営地下鉄に乗り換え、藤が丘行きで一社駅へ。北改札口から社台方面へ、徒歩約10分。

[車で]・・・・・・・・・・中部国際空港セントレアからセントレアライン、知多半島道路を経由し名古屋第二環状自動車道へ。上社南ICを出て、社台方面へ。約45分

more information

山内に関わるあれこれ

shop



山内 gallery shop

2016年にオープンした「山内」のギャラリーショップ。山内の代名詞となった有松塩縮加工リネンシャツなどが、白を基調とした清潔感あふれる店内にディスプレイされている。店頭を担当する知美さんが教えてくれるアイテムのこだわりにも、ぜひ耳を傾けてほしい。

愛知県名古屋市名東区社台1-146

☎052-737-2135 [営]12:00~20:00 [休]火曜・水曜

web



山内 Official Site

2017年の秋冬と2018年の春夏のコレクションが見られるオフィシャルサイト。アイテムそれぞれのこだわりや特徴がていねいに文章化されているので、お買い求めの際は見ておきたい。ショッピングリストもあるので「山内」のアイテムが置かれている近隣の店舗もここでチェック。

<http://yamauchi.jp.net>